

報 告

英語多読を通じた地域貢献活動

田中真由美¹・土田泰子¹・大湊佳宏¹・自見壽史¹・占部昌蔵¹

¹一般教育科—英語 (Liberal Arts-English, Nagaoka National College of Technology)

PUBLIC CONTRIBUTIONS THROUGH EXTENSIVE READING

Mayumi TANAKA¹, Yasuko TSUCHIDA¹, Yoshihiro OMINATO¹,
Hisashi JIKEN¹ and Shozo URABE¹,

和文要旨

学生の英語力向上のため、平成21年度に英語多読用図書が長岡高専図書館に導入され、現在の多読用図書の蔵書数は約6千冊である。これらの図書は、主に英語の授業における多読活動の際に利用されている。長岡高専英語科では、地域住民の生涯学習、本校の広報、そして学生が学外でも積極的に多読を行える環境の整備のため、英語多読に関する地域貢献活動を行ってきた。本稿はこれまでに行った「ながおか市民大学」講座、長岡市国際交流センターとの連携、および、中学生対象の英語多読紹介の概要を報告する。

Key Words : *extensive reading, public contribution, English language teaching*

1. はじめに

本校英語科は、平成 20 年度に英語多読実践プロジェクトを立ち上げ、平成 21 年度より本格的に英語多読の授業を実践している。このプロジェクトは、英語科が申請した教育環境・学習環境整備プロジェクト「自律的英文多読実践」が校内の重点施策経費に採択されたことをきっかけに実施可能となった¹⁾。平成 21 年度には、「英語多読・多聴授業」が重点施策経費に採択され、多読・多聴用教材の購入費が配分された。更に、(独)国立高等専門学校機構の平成 21 年度特別教育研究経費(国際性の向上)に本校が申請した課題「アジア高等教育機関との交流および地域連携による人材育成」が採択され、プロジェクトの一部を成す語学学習支援活動「英語多読・多聴授業」のために、図書購入費が配分された²⁾。以上の経費により、本校図書館には、現在約 6 千冊の英語多読用図書が置かれている。これらの図

書は、本校学生の英語力向上のために購入されたものであり、主に英語の授業の多読活動の際に利用されている。また英語科では、地域住民の生涯学習や本校の広報、そして、学生が学外でも積極的に多読に取り組める環境の整備のため、英語多読に関する地域貢献活動も行っている。平成 21 年には「ながおか市民大学」講座の開講、長岡市国際交流センターとの連携、今年度は、中学生への多読図書紹介を行った。本稿ではこれらの活動の概要を報告する。

2. ながおか市民大学での開講

「ながおか市民大学」は、市内の高等教育機関との連携により、高度で専門的な学習要求にこたえるため長岡市が開校する市民のための大学であり、実施にあたっては長岡技術科学大学、長岡造形大学、長岡大学、長岡工業高等専門学校の教職員や市民が

参加および協力を行っている。これまでに本校からは専門学科教員による理科工作教室や一般教育科の国語科教員による文学の講座，社会科教員による歴史の講座などが行われているが，英語科でも何か講座を持つことができないかという提案があり，英語多読を中心とした講座を担当することとなった。

講座「『読むこと』で広げる英語の世界」は平成21年11月5日（木）から12月3日（木）までの全5回で構成し，それぞれの回を英語科の5名の教員で担当することとした。告知パンフレットでは講座の概要を「学習用にやさしく書かれた英文から読み始め，英語に親しみながら少しずつレベルアップすることを目指し，あわせて英文の読み方のコツを学ぶ」と説明したところ，定員20名に対して21名の応募があり，各回の実参加者数は18名程度であった。募集対象は特に限定しなかったが，40代を中心に男女ほぼ同数の参加があった。英語多読の実践的な講座となることから，本校図書館スタッフの協力を得て会場を図書館とした。

第1回は「英語で読みたい！～はじめの一步～」とし，英語多読についての講義を行った後，実際に多読を行いながら読書記録帳の記入方法を説明した（写真-1）。また，参加者を4名程度のグループに分け，その日に読んだ本の紹介をする時間を設けた（写真-2）。講義に先立って図書館の利用案内と利用者登録を行い，また本講座に関する事前アンケートを実施した。調査項目と回答数及び回答の内容は以下のとおりである。

【事前アンケート】

（参加者18、回答数18、回答率100%）

- 1) 普段英語を使用する機会はあるか
まったくない(5)，ほとんどない(9)，
そこそこある(4)，ほぼ毎日ある(0)
- 2) 普段どのような場面で英語を使用するか
テレビの英会話番組視聴，NHK講座，英会話スクール，在住外国人の生活サポート，海外とメール
- 3) この講座の受講理由，身に付けたいスキルなど
英会話ができるようになりたい，長い英文を読めるようになりたい，効果的な学習方法を身に付けたい，英語の本をスムーズに読めるようになりたい，英語で読んでおもしろいと思いたい，以前の英語力に戻したい，英語の雑誌や新聞を読めるようになりたい，一般教養を身に付けたい，多読法を身に付けたい，多読の面白さを知りたい，英文を読むきっかけにしたい，英語を身近にしたい，

「読むこと」の講座に興味を持った，英語に接する機会を増やしたい，やさしい本の入手方法を知りたい，英語の本を読むコツを勉強したい，日常で使用しない中でのレベルアップ方法を知りたい
4) この講座で取り扱ってほしいこと

英字新聞，読むことと話すこととのつながり，英文読解のコツ，「多聴」についての情報や効果

アンケートは講義中に集計し，その講座の最後で結果を配布しながら回答に対するコメントを行った。また，多読図書を借りる時間を設けると，参加者全員が貸し出しを利用する積極性が見られた。



写真-1 講義の様子（本校図書館）



写真-2 多読の様子（本校図書館）

第2回は「英語で読もう！～英語で読むということ～」とし，レベルアップの仕方やパンダ読み（難しい本が読めるようになって，並行してやさしい本を読むこと）やキリン読み（ふだん読んでいる本より難しいレベルの本を読むこと）等のいろいろな読み方の紹介を行った。多読実践の後，第1回と同様にグループでの本の紹介を行った。

第3回は「英語で読める！～英語で読むための知識～」とし，英文を和訳せず英語のまま，英語の語順に沿って理解するための方法としてスラッシュリ

ーディングを紹介した。

第4回は「もっと読みたい！～多読を成功させるために～」とし、音声CDを活用した英語多読の紹介を行った。この回は定期試験期間中であることから図書館を避け、本校420講義室での開講となった(写真-3)。Oxford Reading Tree シリーズの図書と音声CDを用意し、参加者は携帯用CDプレイヤーを利用してリスニングを行った。その後参加者それぞれにブックレビューを作成してもらった。講義の最初に図書館に集合した際に、紹介したい本を予め借り出しておいてもらっておいたものであり、イラストを交えたユニークな紹介も多かった(写真-4)。



写真-3 英語多読の様子(本校講義室)

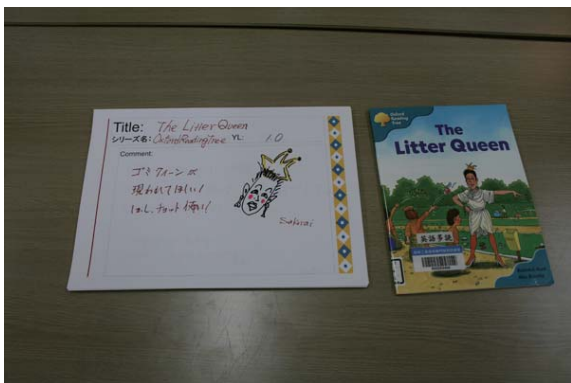


写真-4 ブックレビュー(参加者作品)

第5回は「読み続けていこう！～さらなるレベルアップを目指して～」とし、やはり本校が定期試験期間中であることから図書館を避け、CELL ラボで講座を実施した。インターネットを利用した本の探し方や英語多読関連サイトの紹介を行い、web上で図書が閲覧できるサービスを利用した読書を行った。講座の最後には事後アンケートを実施した。調査項目と回答数及び回答の内容は以下のとおりである。

【長岡市による事後アンケート】

(参加者 19, 回答数 10, 回答率 53%)

- 1) どの地域に在住しているか
長岡地域(9), 中之島地域(1)
- 2) 年齢
40代(2), 50代(4), 60代(3), 70代(1)
- 3) 性別
男性(3), 女性(7)
- 4) 市民大学の受講は何年目か
今回初めて(6), 2年目(1),
3～5年目(1), 5～10年目(2)
- 5) 今回の講座を何で知ったか(複数回答有り)
パンフレット(6), 市政だより(2),
知人紹介(2), ホームページ(1)
- 6) 開催時期について
このままでよい(7), 変更してほしい(3)[昼間
がよい, 仕事が6時までなので遅いほうがよい]
- 7) 開催会場について
このままでよい(7), 変更してほしい(1),
未記入(2)
- 8), 9) 省略
- 10) 講義内容について
大変満足(5), まあまあ満足(3), 未記入(2)

【自由意見・感想】

以前から「多読」に興味があったので大変満足した(60代女性), 多読の方法がよくわかった(50代女性), 「英語多読」という方法があることを初めて知った。易しいレベルから始めたので読みきることができ、挫折してたまっている本に再挑戦する気力が生まれた(50代女性), 「多読」はとても楽しかった。普段入ることのない高専の図書館や教材を使っでの学習はとてもよかった。高専の先生方の指導もわかり易く、好感が持てた(40代女性), 思いがけず「英語多読」という手法に出会えてよかった。貸出図書が一度に3冊では物足りなかった(70代男性), 英語多読へのきっかけやツール(高専図書館の多読図書)を発見できた(50代男性), 継続あるのみと思った(60代女性), 自分のレベルに合わせてやれてよかった(50代女性)

本講座の告知にあたっては講座名や内容に「英語多読」という表現を用いなかったため、参加して初めて英語多読を知った参加者も多かったようだが、アンケート結果からは英語多読を好意的に受け入れ、積極的に取り組んでいた様子を知ることができる。参加者が実際にどの程度の読書を行ったのかについて

では、本校による事後アンケートにより調査を行っている。

【本校英語科による事後アンケート】

(参加者 19, 回答数 12, 回答率 63%)

- 1) 本講座を受講してから読んだ(記録帳に記録した)多読図書の総冊数と総語数

[総冊数] 参加者平均 29冊

0~10冊(2), 11~20冊(1), 21~30冊(4),
31~40冊(2), 41~50冊(1), 51~60冊(2)

[総語数] 参加者平均 24,537語

0~1万語(2), 1万~2万語(3), 2万~3万語(3),
3万~4万語(1), 4万~5万語(2), 5万~6万語(1)

- 2) 今後も英語多読を自分で続けたいと思うか
そう思う(11), ややそう思う(1)

[理由]

一冊一冊読み終える達成感を味わう事ができ、とにかく楽しかった。今までと同様、もっと続けたい。いちいち文法を考えながら訳さずに読む様になりたいので続けたい。手軽にできそうだから、楽しかったから続けたい。「楽しむ」を支えに続けられた。無理せず気長にできたらと思う。この講座の受講をきっかけに、オバマ大統領の東京でのTEXTが新聞に出ていたので読んでしまった。英語多読の達人になりたい。楽しく欧米の異国文化を学びたい。楽しい。他の語学教室にはない方法を学び、図書館利用のチャンスをいただき、熱心な先生の指導が有難かった。

- 3) 自宅の近くに多読用図書を借りられる図書館があればそこで借りると思うか

借りると思う(12)

- 4) 英語多読についての講座を今後も開講してほしいと思うか

そう思う(8), ややそう思う(3),
あまりそう思わない(1)

- 5) 英語多読の講座に対する要望あるいは英語多読以外の講座で開講してほしいもの

少しレベルの高い本(長編など)を読み解く。

「話す」はほとんどあきらめていたので「読む」方は続けたいと思う。多読する中で英米の文化様式の違いをよく目にしたので、英語+文化の違いの説明がある講座などがあると興味を持つ。高専の図書館からの貸出冊数を、多読の初級に限っては「1回10冊, 1週間以内」としてもらえらるともっと多読できたと思う。SSS(注1)を知ることが出来て良かった。英字新聞や英字雑誌(時

事的内容のもの)の講読講座を希望。英文や英語での手紙の書き方の講座。英語多読以外の講座であれば参加するが、レベルの差をどうするかだと思ふ。ミステリーを原文で読む講座があると良い(自分に合った、満足できる本を探すのが難しい。いくら単語が平易な本を読んでも、内容が薄いとなかなか続きにくいので)。

全5回の講座のうち、実際に読書を行うのは毎回30分程度であり、読書記録にはその時間以外に、参加者が自宅で読んだ分の記録も含まれている。約1ヵ月間で平均29冊、24,500語を読んでおり、分速100語で読んだ場合には1日平均約8分の読書が続けたことになる。同じペースで1年間読み続けた場合には年間で約30万語を読むことになる。3年間継続した場合には概ね100万語に達することとなり、洋書のペーパーバックを読むことが可能なレベルに到達することが可能である。ほぼすべての参加者が今後も英語多読を続けたいと回答しており、回答理由から「楽しさ」や「達成感」が継続への意欲につながっていると分析できる。

本講座実施期間中には、講座のない日にも参加者が図書館を利用する様子が見られ、関心の高さを伺うことが出来た。また、講座実施後も継続して利用している様子に加え、貸し出し冊数を増やしてほしい、貸し出し期間を長くしてほしいという本校図書館への要望、さらには市立図書館でも多読図書を利用できるようにしてほしい等の要望があり、英語多読に対する地域のニーズを知る機会となった。参加者の多くが自宅近くの図書館で多読図書が借りられるのであれば借りたいと考えており、発展的な内容も含めて本講座に対する今後の継続的な開講要望を得られたことは大きな励みとなった。多読図書のジャンルおよびレベル構成については本講座参加者の意見も参考になると思われる。英語多読の取り組みも合わせて、本校学生への今後の英語教育を考える上で、本実践を役立てて行きたい。

3. 長岡市国際交流センターとの連携

本校では地域と連携した国際交流活動が盛んに行われている。特に長岡市とは本校の国際交流拠点である地球ラボ設置にあたり構想やプログラムへの助言だけでなく人的交流も行われ、学生による活動だけでなく、長岡市国際交流センター「地球広場」センター長による授業が行われるなど、充実した連携

が実践されている。その中で高専側から何かプログラムの提供ができないかという時に、個々の英語力に合わせて取り組むことのできる英語多読は、日本人だけでなく外国人が第二言語として英語を学ぶのにも役立つことから、在住外国人の多い長岡市ならではの取り組みとして貢献できるのではないかと考えるに至った。さらに、小学校教育で英語が導入され、親子で読めるような英語の本が歓迎されるのではないかとということもあり、地球広場に英語多読図書や英語多読の簡単なガイドを置くことで、活動の場を提供する企画が出された。これが実現すれば、本校学生が英語多読図書を利用する場所も増えることになり、また本校学生に地球広場の存在を周知し利用してもらうことにより、国際理解や国際交流のきっかけ作りもできるのではないかと考えた。地域に英語多読を根付かせ、多くの人々による活発な多読活動が行われる雰囲気作りを行うことで、本校学生にも抵抗なく読ませることを意図するものである。英語多読プログラムの実施と図書の設置について地球広場に打診したところ快諾を得られたことから、取り組みの具体化について話し合いを行った。

地球広場との連携を開始するにあたり、英語多読に関するガイダンスを実施した。スタッフ4名が来校し、本校図書館での多読図書の取り扱いについて説明した後、英語多読の概要や実践方法のポイント等についての情報提供を行い、利用者への説明や貸し出しについては地球広場の運営によるものとした。

英語多読図書は本校の図書館より入門レベルのものを中心に、約160冊を貸し出すこととした。貸し出しにあたっては地球広場と本校の間で書面による取り決めを行った。また図書には引き渡しの前に、本校と同じ形式で読みやすさレベルと総語数の表示、背表紙の色分けラベル貼付を行った。地球広場の一角に英語多読コーナーが設置され、カラフルな表紙が見えるように配置された図書は、利用者の関心をひくものとなっている（写真-5 および写真-6）。設置当初は閲覧のみの取り扱いだったため、写真では閲覧用と表示されているが、現在では利用者に対する貸し出しも実施されている。

地球広場での英語多読図書の貸し出しは6月より開始され、6月には9件、7月には11件の貸し出しが行われた。一回の貸し出しでは一人あたり平均3冊程度を借りており、利用者は少しずつ増加している。「面白そうだから試しに借りてみる」といった意見に加え、「長岡市立中央図書館でも借りられるとよい」といった意見もあった。貸し出し方法については概ね確立されたことから、今後は図書の充実

に加え、市報による周知やガイダンスの実施など、利用の拡大に向けた取組について話し合い、連携を継続していきたい。



写真-5 地球広場の多読コーナー（全体）



写真-6 地球広場の多読コーナー（部分）

4. 中学生への英語多読紹介

本校が毎年夏に行っている地域貢献事業「わくわくサイエンス」が、今年度も開催された。今年度は8月10日に行われ、長岡市立栖吉中学校1年生が「わくわくエコ実験」、「わくわく科学実験」そして「学内見学」に参加した。今年度は英語科もわくわくサイエンスに協力し、学内見学の際に英語多読用図書の紹介を行うこととなった。学内見学では図書館も見学場所の一つとなっており、図書館司書教諭による図書館の説明の後、英語科教員が英語多読用図書の特徴や多読授業の様子などを紹介した。また、参加者には実際に本を手にとってもらった。多

くの参加者が英語に翻訳された日本のマンガ本や、簡単な英語で書かれた絵本に興味を示し、英語の難易度や挿絵について感想を述べていた（写真-7）。



写真-7 わくわくサイエンス 学内見学（本校図書館）

以下は、わくわくサイエンス終了後に、「その他（学内見学や全体の感想など）」の欄に参加者が書いた感想の抜粋である。地域の中学生の本校や英語学習に対する関心がさらに高まるよう、わくわくサイエンスのような中学生対象の地域貢献活動を今後も検討して行きたい。

【感想】

・図書館の中に入って実際に英語で書いてある本を読みました。よく分からなかったけど、3年後に読めているかもしれないので、やっぱり勉強は大切だと思い、3年後にその本が読めるように、勉強に専念し、努力していきたいと思いました。

・一番印象に残ったのは図書館です。広くてたくさん本がありました。中にはドラゴンボールやドラえもん英語版がありました。しかもいつ来てもいいということなので、また来てみたいと思いました。

5. 最後に

英語多読実践プロジェクトは、本校学生の英語力向上を目的としたものである。しかし、この英語力向上のための取り組みは、本校だけでなく、様々な波及効果を期待しながら、地域社会全体で行うものとして位置付けられる。昨年度、公開講座を行った

ことで、本校の英語教育を体験してもらうことができ、かつ、多読を含む英語学習に関する地域のニーズを知ることができた。また、長岡市国際交流センターとの連携によって、本校図書館以外にも英語多読用図書が借りられる場所が設置された。地域の中学生には、長岡高専の図書館や英語教育に関して興味を持ってもらうことができた。英語多読は、教育機関や社会人の間で行われるようになってきたが、まだ一部の人々にしか行われていないのが現状である。以上のような地域貢献活動によって、地域全体に英語多読を行う雰囲気ができ、本校の学生が、学校の授業だからという理由で多読を行うのではなく、継続的な学習を通して自己を高める生涯学習として行う姿勢が養われることを期待する。

注1

SSS とは Start with Simple Stories の略。易しい本から始める段階的多読法。

参考文献

- 1) 田中真由美・大湊佳宏・土田泰子：長岡高専における多読実践プロジェクト（その1）、長岡工業高等専門学校研究紀要、第45巻第2号、pp. 19-24, 2009
- 2) 田中真由美：英語多読・多聴、アジア高等教育機関との交流および地域連携による人材育成（中間報告書）、p. 42, 2010.

(2010.10.4 受付)